

昨年の大賞はアレ(A・R・E・)

毎年、年末に発表される「新語・流行語大賞」



名古屋北労働基準監督署長 寺部 重宏

54

「アレ(A・R・E・)」が選ばれました。いろいろなメディアでも紹介されましたのでご存じの方も多と思います。18年ぶりのリーグ制覇、38年ぶりの日本一に輝いた阪神の「優勝」を意味する言葉です。

昨年の大賞を含めて、3年連続で野球関連の言葉が、年間大賞となったことで、野球にあまり興味のない方には、びんと来ない方や、もっとほかの言葉が大賞ではと思つた方もいらっしゃると思えます。世代や嗜好もさまざまですので、流行語の一つととらえて楽しめばよいと思います。さて、皆様は「ひき肉です」という言葉をご存知ですか。私自身は全く知りませんでした。中学生ユーザーバーが生んだ挨拶などの決めゼリふで、いろいろなスポー

ツ選手もそのポーズを披露するなど若者の間では大変流行したそうです。これら、若者による独自の「新語」や「流行語」も広まっております。流行語自体も多



様化していると感じられます。

発表される新語・流行語は、その年の世相を反映し、経済や労働にかかわるものも選出され、昨年は、「2024年問題」もノミネートされました。かつて、2013年には「ブラック企業」がトッ

プ10に入ったこともありましたが、もともと以前の1989年にはテレビコマーシャルの猛烈に働くサラリーマンから生まれた「24時間タタカエマスカ」といった流行語もありました。

数か月前の日本経済新聞の記事にも掲載されていきましたので、ご覧になった方もいらっしゃるかと思えます。が、時間外労働の上限規制を盛り込んだ働き方改革関連法の施行などにより、労働行政でも長時間労働の抑制など企業の就労環境の改善を後押ししてきました。

この10年余りの間に、かつて、長時間労働やパワハラが横行し、働きたくない企業の代名詞となっていた「ブラック企業」も職場のホワイト化が進み、多くの企業が「ホワイト企業」へと転換しています。

職場がホワイト化することは、労働者にとって

も大変良いことだと思えますが、今の若手社員は、職場の就労環境が良くて成長機会の乏しい組織には背を向ける傾向がある。一方で、成長機会や自分の市場価値を高める方向に意識が移っています。また、緩すぎて成長機会を見いだせない「ゆるブラック」なる言葉も出てきたとのこと。

少子高齢化で、人材不足はさらに深刻化することが見込まれる中、職場のホワイト化だけでなく、若手社員の成長環境を改善することが求められているのではないかと思います。

今年の「新語・流行語大賞」で「ゆるブラック」なる言葉が流行語にならないように、皆様には、「働きやすく、若手社員が成長できる魅力ある企業」を目指していただきたいと思えます。

イラスト・木村武司